

2024 年度 経済・経営学会学生研究助成プログラム
実 施 報 告 書

経済学部 国際フィールドワーク（オランダ）
（1 年次：2 名、2 年次：8 名、3 年次：9 名、計 19 名）

注）申請時は計 20 名だったところ、1 名（3 年次）が FW 活動不参加

文責：経済学部 太田志乃

本フィールドワーク（訪問国：オランダ、ベルギー、シンガポール）は、下記 4 つを活動軸として展開、2024 年 8 月 27 日（火）～9 月 7 日（土）にかけて海外活動を展開した。

- ① 海外現地との交流を通じて国際的視野を磨き、自分の世界観を広げる
- ② 経済・産業関連施設を視察・調査し、経済のグローバル化の理解を深める
- ③ 現地の文化と接することにより、多様な価値観を尊重するマインドを育てる
- ④ 英語力のレベルアップとコミュニケーション力をつける

① 概要

実施スケジュール（一部抜粋）

8/27～28	(Tue/ Wed)	移動、アムステルダム到着後、市内散策など
8/29	(Thu)	在蘭商工会議所訪問、国立美術館見学など
8/30	(Fri)	アムステルダム自由大学ワークショップ ^① 、運河クルーズなど
8/31	(Sat)	アムステルダム市内観光（グループ行動）
9/1	(Sun)	Van Gogh ゴッホ村、ゴッホミュージアム、Windmill St Victor 見学など
9/2	(Mon)	Den Bosch Cathedral、 Vanderlande（豊田自動織機）訪問 ^②
9/3	(Tue)	ベルギーへ移動、アントワープ見学 ブリッセルに移動後、EU議会見学などののち、オランダへ移動
9/4	(Wed)	ライデンへ移動後、 ライデン大学にてプレゼンテーション ^③ キャンパスツアー、ライデン大学日本語学科学生との交流、ディナーなど
9/5～6	(Thu/Fri)	オランダ・スキポール空港からシンガポールへ移動 シンガポール着後、シンガポールツアー参加、 萩原電気（Singapore Hagiwara）にて研修、 萩原電気関係各位、Microsoft 現地部長の方を交えたディナー
9/6～7	(Fri/Sat)	中部国際空港着、荷物引き取り後に解散

本科目は経済学部 佐土井 有里 教授を主担当に、太田が現地引率を手伝う形で展開された。4～7 月の講義期間においては、オランダの歴史、経済を概観するといった座学と受講学生によるオランダでの英語プレゼンテーションの用意、作成、練習などの期間を経てフィールドワーク活動に臨んだ。

初海外という学生も多いなか、国際線搭乗の間も緊張していた学生たちだが（トランジット先では電子申告などの制度もあり、スムーズな入国ができずに戸惑いも見せていたが）、日に日に現地に溶け込み、滞在先の方々の温かさにも触れ、自ら英語で話しかける姿も多くみられた。下記の行程を経るごとに、英語「耳」も養われた模様で、本人たちも「慣れる」ことを楽しんでいるように見受けられた。

以下、日程表のうち①、②、③抜粋にて概要を紹介する。

① アムステルダム自由大学 Vrije Universiteit Amsterdam ワークショップ

Economic Implications of Aging Populations on Sustainable Development Goals(SDGs)

－Perspectives from the Netherlands and Japan



アムステルダム自由大学では、Prof. Theo Kocken 指導下にてワークショップを行った。同教授は映画 *Your Hundred year Life* の製作者で、年金制度のプロフェッショナルでもある。その教授らに対し、本学学生は事前に用意した下記4テーマを班ごとに英語でプレゼンテーションし、貴重な意見を頂いた。発表のなかには日本と異なるオランダの制度を紹介したり、公的統計を駆使して今後を見据える提言を行ったりする班もあり、教授からは「新たな視線、考え方をもらった」との言葉も頂戴した。学生たちも強く、刺激を受けていた。

アムステルダム大学での発表

- ① Life Planning For Young People（若者のライフ設計）
- ② Our Pensions and the Future（私たちの年金と未来）
- ③ The Different Types of Elderly People（人によって異なるリタイア後のライフ設計）
- ④ Our Future with Dementia（認知症と私たちのミライ）

② Vanderlande 訪問

同社は、1949 年設立のオランダ企業である。小売業、小包・郵便事業向け物流システムに強みがあり、空港の旅客手荷物処理システムにおいては世界トップシェアを誇る。同社は 2017 年、株式会社豊田自動織機が物流ソリューション事業強化のために買収されている。今次の訪問では、Vanderlande 研究開発部門の責任者と日本からの出向者の方で対応頂いた。

訪問時は企業概要の説明を詳細に頂き、初めて「物流業」に触れる学生たちは B to B 事業のあり方を学んだほか、企業がどのような戦略をもって買収や企業提携などに着手するのにも興味深くインタビューしていた。加えて R&D センター視察の機会にも恵まれ、モノづくり以外の研究開発のあり方にも関心を抱いていた。

③ ライデン大学 Universiteit Leiden における学生間交流

ライデン大学はオランダ最古の大学であり、シーボルトが日本からの帰国後、同大学で日本について教鞭をとったことから、世界で初めて日本学科が設けられたとされる大学である。今次は同学科の学生たちと交流した。



1～4 年生と異なる年次の学生が多く参加し、ここでも本学部学生たちによるプレゼンテーション（①アムステルダム大学向けに用意した内容とは異なり、オランダの学生たちも楽しんでもらえるような内容）を行った。日本の駄菓子文化や、スポーツ活動、日本語「やばい」が持つ意味多様性や、前もって名城大で撮影した日本の大学生の日常など風景など、オランダの学生たちも楽しく聴き入っていた。時には笑いもおき、英語でのプレゼンが同世代に「うけた」ことに、本学部生たちも手ごたえを感じた様子だった。その後、皆でディナーを共にする場面では、互いに英語と日本を交えてオランダの名物料理、パンケーキを堪能した。

以上、概要報告である。ほかにも現地の方を宿泊先にお招きしてBBQを楽しんだり、実際に稼働している風車(小麦粉挽き)を見学し、風車の仕組みを教えてもらったりと「国際」フィールドワークならではの体験も多く堪能した。計21名(うち教員2名)の大きなグループだったが、1～3年生まで皆が自分の役割をきちんとこなし、時には他の学生を助けながら12日間の行程を終えた。この間、学生たちが体得したことは、海外の生活、文化、企業のあり方だけではなく、今後、社会に出た際にチャンスが訪れるだろう海外赴任時のイメージや、現地の方とのコミュニケーションのとり方など多岐に亘る。情報社会と言われる現在において、海外のそれを得るツールは多くあるが、大学生の今、自分たちで考え抜き、体験できたことは必ずや彼らの長い人生において大きな糧になると感じさせられたフィールドワークでもあった。

一方で、学生たちが口をそろえてコメントしたのが、今回のフィールドワークのスケジュールの「濃さ」である。企業や大学訪問などハードな面と、現地の方との交流や文化体験、視察などソフト面の両方を兼ねた今回のプログラムは、いわゆる旅行ツアーでは体験できない内容である(これはひとえに、全プログラム調整をおひとりで担われた佐土井先生によるところが大きい。日程、ロジ調整やこの円安基調のなか、学生負担が少しでも少なくなるようにと宿泊先の工夫など細やかな配慮があった)。「各自が英語でプレゼンテーションを行う」ことを前提に、本フィールドワークは募集開始したが、教員が想定する以上の学生たちが応募してくれた。人数制約があることから、泣く泣く指定人数まで絞ったが、今後もぜひ、多くの経済学部生たちにもこの国際フィールドワークを経験してもらい、海外への関心も強く抱いてもらいたいと感じた次第である。



以上、紙幅をオーバーしてしまい恐縮だが実施報告である。本フィールドワークに参加した学生たちが、今回の経験を糧に今後の大学での学びをより一層、深めてもらいたいと願うとともに、彼らの今後の活躍に期待したい。また、初めて国際フィールドワークに参加し、

右も左も解らない報告者に、フィールドワークの面白さを教えて頂いた佐土井先生にも感謝申し上げる次第である。

最後に、一連の活動のなか、2024 年度経済・経営学会の助成金はオランダ・アムステルダム交通費として充当させて頂きました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

以 上